

令和6年度第1回 久留米市認知症ネットワーク会議 会議要旨

日時	令和6年 8月23日(金) 18:00~18:40
場所	久留米役所 303会議室
出席者	小路委員長、堀江副委員長、武藤委員、杠委員、柳委員、北原委員、吉永委員、長澤委員 関委員、天本委員、江頭委員、橋本委員、中村委員、岩坂委員(14名)
欠席者	阿部委員、綾部委員、笠委員
傍聴者	なし
議事次第	1 報告事項 (1) 令和5年度実績報告 (2) 久留米市認知症支援ガイドブックについて 2 協議事項 (1) 認知症の早期発見のための取り組みについて 3 その他
議 事	
1 報告事項(1) ＜事務局＞	令和5年度実績報告について (事務局より資料1を基に説明)
＜杠委員＞	いろいろな活動をしていただきありがたい。 認知症予防講座について認知機能検査の結果、「黄色判定：認知機能低下の疑い」や「赤色判定：強い疑い」が結構な割合であるようだが、このような方への具体的な指導は何をしているのか。
＜事務局＞	黄や赤判定の方へは、小路先生よりかかりつけの先生宛にお手紙を書き、医療機関への受診勧奨を行っている。受診に繋がらない方が半数ほどいらっしゃり、そのような方には、地域包括支援センターより電話かけ等のフォローをお願いし、受診を促している。
＜委員長＞	検診時に、簡単にかかりつけ医を確認するようにしている。そして、大体の検査内容をある程度手紙に記載、後日医療機関を受診していただく流れ。事務局からも話があったように、この後の議題にも上がるが、受診が半数程度というのを今後どうするかが課題になる。
報告事項(2) ＜事務局＞	久留米市認知症支援ガイドブックについて 昨年度の本会議や書面でも報告させていただいていたが、医療機関の情報を最新版に更新、相談支援の際に使用しやすい構成に変更とした。ひとまずこの改訂版を数年利用し、オリジナル版の作成については、引き続きプロジェクトチームでの検討を続け、スマホ等で持ち歩けるデジタル化の検討も含め着手していく予定。
＜委員長＞	現行のガイドブックは、著作権が久留米市に無い事が大きな課題と考えている。せっかく各専門家が集まっているので、出来るだけプロジェクトチームでオリジナル版を作成したい。しかしながら、内容以外で挿絵1つについても課題があることがわかり、ひとまず昨年度の改訂となった。具体的に掲載したい内容など次回の改訂

<p>2 協議事項(1)</p> <p><事務局></p> <p><委員長></p> <p><杠委員></p> <p><杠委員></p> <p><事務局></p> <p><杠委員></p> <p><委員長></p> <p><杠委員></p> <p><委員長></p>	<p>について、今後ご意見など頂戴できればと思っている。</p> <p>認知症の早期発見の取り組みについて</p> <p>事務局として、先の報告でお話したように、「認知症予防講座」や「ものわすれ予防検診」において行っている認知機能検査の機会や対象者数が不足していると考えている。希望者が非常に多い「ものわすれ予防検診」の拡大も、実務上難しく、検査数を増やす方法について検討していきたいと思っている。皆様の専門的な立場から、ご自由に意見をいただき意見交換をさせていただきたい。</p> <p>先の報告にあったように、久留米市第9期高齢者福祉計画でも、普及・啓発や早期発見・早期対応を推進していくこととなっている。ものわすれ予防検診などいろいろな取り組みをしているが、久留米市の人口に対する認知症者の推計に対し、検査可能な人数が明らかに足りていないことが課題。一方で、早期発見・早期対応については、社会保障費の削減を含めたメリットが非常に大きい。いかに早期発見の仕組みを作るかも課題。</p> <p>筑後吉井こころホスピタル（うきは市）で、認知症の診断等やっている。ここではR5年度より「ものわすれ相談」を年2回くらい行っている。地域の方にとって医療機関、精神科受診の敷居が高い。「あそこにはいきたくない」などといった一種の偏見はまだ残っていると考えている。（我々が）外に出て会わなければ、待っているだけでは、重症化してからしか受診しない。周辺症状で本当に困ってからの受診になってしまう。役所や福祉センターなどの方がハードルが低く、意外と軽症の方、ものわすれやMCIの方を見つけやすい場所になっている。</p> <p>「ものわすれ相談」は、吉野ヶ里町でも十数年行っている。最初のころは不安が強い方が来られていたが、徐々に軽症認知症やMCIの方が増えてきて、早期発見・相談場所の役割を担えているかと思う。相談に一度来られると、直接顔を合わせることで、医療機関への受診も勧めやすい。このように窓口を前に出すという工夫は良いかと思う。</p> <p>独居の人をどう見つけるか。関心がある人、家族がいる人は良いが。</p> <p>行政主催で病院側の医師が相談を受ける仕組みという理解で良いか。</p> <p>その理解で良い。決まった時間、会場に出向いている。広報誌で周知することで周りに勧められてくる人などが増えた。</p> <p>具体的な検査内容は。</p> <p>基本的に長谷川式だが、問診がほとんど。日常生活がどのくらいできているかの評価。本人やご家族に会って認知機能の評価をして、「さらに検査をしましょう」となると画像診断ができるような施設を紹介する。私たち専門医が、本人や家族にお会いする機会が一番大切かなと思う。</p> <p>久留米市は人口30万都市。言い訳になるが、H17年頃からものわすれ予防検診を始めたが、これでは足りないという事から、「認知症予防講座」を作ってもらった経緯がある。先生の意見はごもっともだが、検査や診察ができる医療機関を増やすという対策がとれるのかどうか。また、事務局と話しているのが、長谷川式やMMSEといったスクリーニング検査ですら敬遠されるイメージを持っている方がいる。もっと気軽にスクリーニングできないか、また健康に関心ある人や家族は相談</p>
---	--

<p><武藤委員></p> <p><事務局></p> <p><委員長></p>	<p>会等に参加されることができるが、今後独居世帯が増える中、どう拾い上げるかが課題。気軽にできる検査数を集めることができるといった観点から、何なりとご意見をいただければ。</p> <p>久留米市では、脳神経外科や神経内科の先生方がものわずれに関して診てくれることが多いと思う。精神科のクリニックより、そういった科の受診の方が多いのではないかという印象。</p> <p>保健所でも、毎週木曜日「精神保健相談」があつているが、そこで認知症に関する相談がどれくらいあるのか。そこからひとつの「窓口」になるのでは。</p> <p>今のところ、保健所からのつなぎはない。再度確認する。</p> <p>窓口を広げることも大事な提案だと思う。それぞれの立場でいろいろな相談を受ける中で、認知症に関する高齢者の相談が増えてきていると思う。その際の紹介先や、つなぎ先はいかがでしょうか。</p> <p>今日だけでなくいつでも事務局の方に、忌憚なきご意見をいただき次回以降の会でも検討できればと思う。いかに早期発見・早期対応できるかという観点で今後もお考えいただければ。</p> <p>ご意見ありがとうございました。頂いたご意見は、今後に反映させていただきたい と思います。</p>
<p>3その他 <事務局></p>	<p>認知症講演会、オレンジ健康フェスタについての案内</p>